

# 日眼女釈迦仏供養事

弘安二年二月二日 五八歳

御守り書いてまいらせ候。三界の主<sup>あるじ</sup> 教主釈尊<sup>にちげんによ</sup> 一体三寸の木像造立の檀那日眼女。御供養の御布施、<sup>さき</sup>前に二貫今一貫云云。法華經の寿量品に云はく「或は己身を説き或は他身を説く」等云云。東方の善徳仏・中央の大日如来・十方の諸仏・過去の七仏・三世の諸仏、上行菩薩等、文殊師利・舎利弗等、大梵天王・第六天の魔王<sup>しやくだいかにん</sup>・釈提桓因王・日天・月天・明星天・北斗七星・二十八宿・五星・七星・八万四千の無量の諸星、阿修羅王<sup>あしゅら</sup>・天神・地神・山神・海神・宅神・里神・一切世間の国々の主とある人何れか教主釈尊ならざる。天照太神・八幡大菩薩も其の本地は教主釈尊なり。例せば釈尊は天の一月、諸仏菩薩等は万水に浮ぶる影なり。釈尊一体を造立する人は十方世界の諸仏を作り奉る人なり。譬へば頭を<sup>振</sup>ふれば<sup>髪</sup>かみゆるぐ、心は<sup>働</sup>たらけば身うごく、大風吹けば草木<sup>静</sup>しづかならず、大地うごけば大海<sup>騒</sup>さはがし。教主釈尊をうごかし奉ればゆるがぬ草木やあるべき、さわがぬ水やあるべき。今日の日眼女は三十七の<sup>厄</sup>やくと云云。やくと申すは譬へば<sup>賽</sup>さいにはかど、<sup>升</sup>ますには<sup>角</sup>すみ、人には<sup>開</sup>つぎ<sup>節</sup>ふし、方には<sup>よすみ</sup>四維の如し。風は方より<sup>弱</sup>ふけばよはく、角より吹けばつよし。病は肉より起これば治しやすし、<sup>ふし</sup>節より起これば治しがたし。家には<sup>垣</sup>かきなければ盗人<sup>入</sup>いる、人には<sup>失</sup>とが<sup>かたきたよ</sup>あれば敵<sup>受</sup>便りを<sup>厄</sup>うつく。やくと申すは<sup>ふし</sup>ふしぶしの如し。家にかきなく、人に<sup>とが</sup>科あるがごとし。よきひやうじを以てまぼらすれば盗人をからめとる。ふしの病をかねて治すれば命ながし。今教主釈尊を<sup>ぞうりゅう</sup>造立し奉れば下女が太子をうめるが如し。国王尚此の女を敬ひ給ふ。何に況んや大臣已下をや。大梵天王・<sup>しやくだいかにん</sup>釈提桓因王・日月等此の女人を守り給ふ。況んや大小の神<sup>うでん</sup>をや。昔優填大王、釈迦仏を造立し奉りしかば、大梵天王・日月等、木像を礼しに参り給ひしかば、木像説いて云はく「我を供養せんよりは優填大王を供養すべし」等云云。影堅王の画像の釈尊を書き奉りしも又々是くの如し。法華經に云はく「若し人仏の為の故に諸の<sup>ぎょうぞう</sup>形像を建立す。是くの如き諸人等皆已に<sup>すて</sup>仏道を成じき」云云。文の心は一切の女人釈迦仏を造り奉れば、現在には日々月々の大小の難を払ひ、後生には必ず仏になるべしと申す文なり。<sup>そもそも</sup>抑女人は一代五千七千余巻の経々に、<sup>嫌</sup>仏にならずと<sup>ただ</sup>きはれます。但法華經ばかりに、女人は仏になると説かれて候。天台智者大師の釈に云はく「女に記せず」等云云。釈の心は一切経には女人は仏にならずと云云。次下に云はく「今の経は皆記す」と云云。今の法華經にこそ竜女は仏になれりと云云。天台智者大師と申せし人は、仏滅度の後一

千五百年に、漢土と申す国に出でさせ給ひて、一切経を十五返まで御覽あそばして候ひしが、法華経より外の経には女人は仏にならずと云云。妙楽大師と申せし人の釈に云はく「一代に絶えたる所なり」等云云。釈の心は一切経にたえたる法門なり。法華経と申すは星の中の月ぞかし、人の中の王ぞかし。山の中の須弥山、水の中の大海の如し。是程いみじき御経に、女人は仏になると説かれぬれば、一切経に嫌はれたるになにかくるしかるべき。譬へば盗人・夜打・強盗・乞食・渴体かつたいにきはれたらんと、国の大王ほに讃められたらんと、何れかうれしかるべき。日本国と申すは女人の国と申す国なり。天照太神と申せし女神めがみのつきいだし給へる島なり。此の日本には男十九億九万四千八百二十八人、女は二十九億九万四千八百三十人なり。此の男女は皆念佛者にて候ぞ。皆念佛なるが故に阿弥陀仏を本尊とす。現世の祈りも又是くの如し。設たひ釈迦た仏をつくりかけども、阿弥陀あみだ仏の浄土じやうとへゆかんと思ひて、本意の様には思ひ候はぬぞ。中々つくりかゝぬには劣をとり候なり。今日けふ眼女にちげんは今生の祈りのやうなれども、教主釈尊をつくりまいらせ給ひ候へば、後生くわも疑ひなし。二十九億九万四千八百三十人の女人の中の第一なりとを思ぼしめすべし。委しくは又々申すべく候。恐々謹言。

二月二日

日 蓮 花 押

日 眼 女 御 返 事